

令和6年度 事業報告書 令和6年度 決 算 書

自 令和 6年4月 1日
至 令和 7年3月31日

社会福祉法人小郡市社会福祉協議会

令和 6 年度事業報告

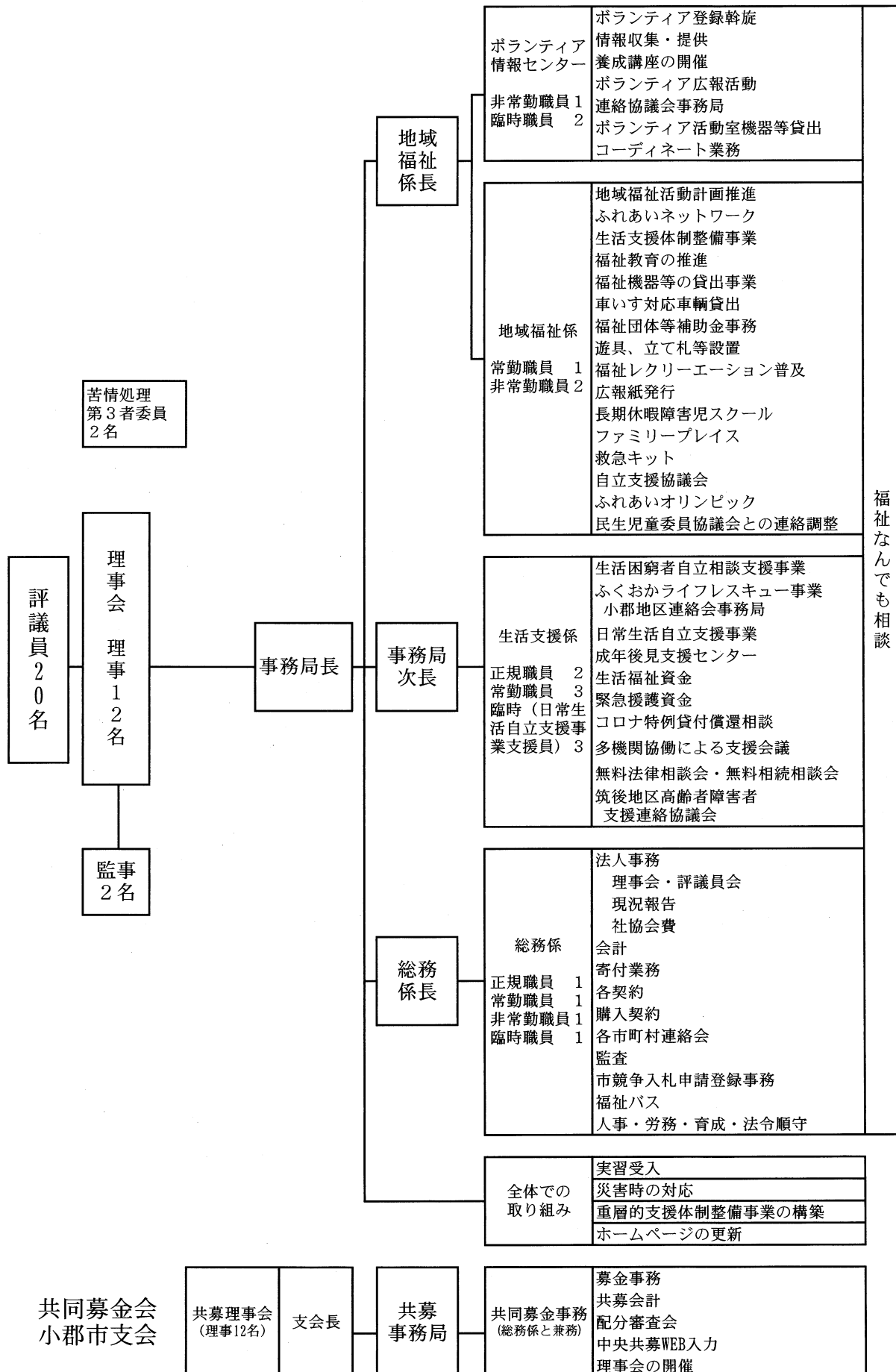
自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 3 1 日

—目次—

小郡市社会福祉協議会組織体制	 P 1
I 令和 6 年度総括	 P 2
II 事 業 報 告	
【法人運営部門】	 P 3
【地域福祉活動部門】	 P 10
【相談支援・権利擁護部門】	 P 27
【生活支援部門】	 P 35
【部門間での取り組み】	 P 38

令和6年度小郡市社会福祉協議会組織体制



I 令和6年度総括

令和2年より過去3年余りにわたり、新型コロナウイルスの影響を社会全体が受けましたが、令和6年度は社会経済活動が戻り、私たちの日常生活や地域活動も通常に近い状態になりうる1年でした。しかし、長期にわたる人々の接触制限や活動の自粛等、また物価の上昇、実質賃金の減少等により、社会的な孤立や失業・減収等による生活困窮者の増加、そして地域とのつながりの希薄化など、地域における様々な生活課題はさらに複合化し、一段と深刻になってきました。これらの課題解決には、多職種連携・多機関協働が必要となっています。

また、令和6年1月に発生した能登半島地震は甚大な被害を広範囲にもたらしました。当会として、被災地に職員を延べ4回派遣し、被災地の災害ボランティアセンター運営支援を行いました。そこで改めて共助の大切さや、地域福祉活動の重要性を再認識させられました。

このような中、当会は「だれもが「つながり」と「支え合い」のなかで、幸せを実感できるまち おごおり」の基本理念に基づき、様々な事業活動や支援に取り組み、また地域住民、各種関係団体、行政等と連携・協働して、地域福祉の推進を行いました。

そして、「第2次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の計画期間が満了することから、地域の多くの方々の参加・協力のもと「第3次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することができました。今後5か年をかけて計画を推進して参ります。

このほか、3年間の準備事業期間を経て、小郡市が取り組む「重層的支援体制整備事業」を当会が一部受託し事業を行いました。本事業は、関係機関や地域の方々と連携・協力して複雑化、複合化する生活課題の解決に取り組み、互いに支え合い、助け合える地域共生社会の充実を目指していきます。

Ⅱ 事業報告

【法人運営部門】

総務係では、健全な事業運営のため定款に沿って理事会・評議員会等を開催し、当会全体の事業等に関する審議を行いました。また事業運営の透明性を図るため監事による会計監査を実施し、適正かつ円滑な法人運営に努めました。

自主財源の柱となる赤い羽根共同募金と社協会費においては、各行政区長や民生委員児童委員をはじめとする関係者の皆様の推進活動協力のもと、地域の皆様の温かいご理解ご協力により昨年度の実績を上回ることができました。

しかしながら、香典返し寄付においては近年の葬儀事情や社会情勢の変化により件数・寄付額ともに減少傾向にあり大変厳しい状況となっています。

一方、一般寄付においては寄付額の差異はあるものの件数は横ばいとなっており、当会が実施している活動を広報誌等で積極的に発信し、地域の皆さまに活動を周知し事業への理解を深めていただき自主財源確保につながる新たな仕組みを検討する必要があります。

また、人材育成・定着を図るため研修会等への参加を促進し、職員のスキルアップや当会内の情報共有を定期的に行い、事務・事業の効率化及び適正化に努めました。

(1) 理事会、評議員会、監事監査、評議員選任・解任委員会の開催

①理事会

月 日	内 容
6 月 4 日	・令和 5 年度事業報告・決算について 監査報告 ・令和 6 年度収支補正予算（案）について ・評議員選任・解任委員の選任について ・評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催について ・定時評議員会の開催について ・会長の職務執行状況について
3 月 14 日	・令和 6 年度収支補正予算について ・令和 7 年度事業計画（案）について ・令和 7 年度収支予算（案）について ・職員就業規則の一部改正について ・嘱託職員就業規則の一部改正について ・役員等賠償責任保険契約締結について ・評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会について ・評議員会について ・会長の職務執行状況について

②評議員会

月 日	内 容
6 月 28 日	・令和 5 年度事業報告・決算について 監査報告 ・令和 6 年度収支補正予算（案）について ・理事の選任について
3 月 27 日	・令和 6 年度収支補正予算について ・令和 7 年度事業計画（案）について ・令和 7 年度収支予算（案）について

③監事監査

月 日	内 容
5 月 20 日	・ 令和 5 年度第 3 期監査（決算監査）
9 月 25 日	・ 令和 6 年度第 1 期監査
1 月 28 日	・ 令和 6 年度第 2 期監査

④評議員選任・解任委員会

月 日	内 容
6 月 4 日	・ 評議員の選任について
3 月 14 日	・ 評議員の選任について

（２）会計管理・財務管理

①会計に関する法令等に基づき適正に計算書類を作成しホームページに公表しました。

②内部けん制体制を構築し複数人によるチェック機能を図り、日常の経理事務を適正に行い不祥事防止に努めました。

（３）自主財源の確保

①赤い羽根共同募金運動の推進

地域の様々な課題に柔軟に対応する民間社会福祉活動の財源として、10月から12月まで赤い羽根共同募金運動を行い、行政区、関係団体・個人等の協力により、赤い羽根共同募金額は、8,986,653円の実績を上げることができました。

【各種募金実績】

募 金 種 別	令和 6 年度実績
戸別募金	5,624,700 円
街頭募金	105,781 円
個人・法人募金	1,775,600 円
設置募金箱募金	173,557 円
学校募金箱募金	224,637 円
資材（バッジ・ボールペン・クオカード等）募金	925,000 円
あすてらすフェスタ募金	51,516 円
自動販売機収入募金	90,294 円
ネット募金	15,537 円
預金利子	31 円
計	8,986,653 円

【共同募金会小郡市支会理事会・配分審査会・監査】

月 日	内 容
6 月 27 日	・ 令和 5 年度共同募金会小郡市支会監査（会計監査）
8 月 26 日	・ 会長・副会長の互選について ・ 令和 5 年度共同募金会小郡市支会事業報告・収支決算について

月 日	内 容
2 月 10 日	・ 令和 6 年度（令和 7 年度事業）共同募金配分審査について
2 月 20 日	・ 令和 6 年度共同募金実績における令和 6 年度（令和 7 年度事業）共同募金配分（案）について ・ 令和 7 年度共同募金会小郡市支会事業計画（案）について ・ 令和 7 年度共同募金会小郡市支会本部サービス区分収支予算（案）について

・ 共同募金運動のチラシ 23, 700 部を作成し、10 月 1 日に市内各世帯等に配布

【災害義援金の受付】

災害により被災された方々の支援のため事務所窓口にて義援金募集を行いました。

名 称	受付期間	期間受付額
令和 6 年能登半島地震災害義援金	令和 6 年 1 月 5 日 ～令和 7 年 12 月 26 日（予定）	809,712 円
令和 6 年 7 月山形・秋田大雨災害義援金	令和 6 年 8 月 1 日 ～令和 6 年 12 月 27 日	
令和 6 年能登豪雨災害義援金	令和 6 年 9 月 26 日 ～令和 7 年 3 月 31 日	
大船渡市赤崎町林野火災による災害義援金	令和 7 年 3 月 6 日 ～令和 7 年 6 月 30 日（予定）	

②寄付金・寄付物品の受入れ

市民の方や団体から福祉活動に活用してほしいと温かいご寄付をいただきました。

	件 数	寄付金額合計
香典返し寄付	6 件	100,000 円
一般寄付（物品寄付 2 件含）	53 件	1,122,577 円



久留米法人会様より



福岡県信用組合様より

③賛助・戸別会費の推進

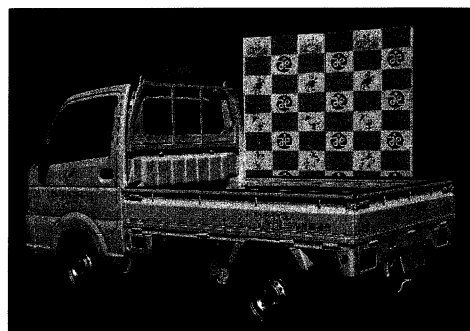
市民の「福祉参加」として当会事業にご賛同いただき、会費を通して様々な福祉活動を資金面で援助いただくため、賛助会員制度の推進に取組みました。

会 員	件 数	会 費 額 合 計
個人会費	102 件	227,000 円
法人・団体会費	31 件	198,626 円
戸別会費	—	2,357,450 円
計	133 件	2,783,076 円

④財団助成等の財源確保

福岡県共同募金会の「社会福祉協議会が取り組む生活困窮者支援のためのアウトリーチ用車両整備事業」を活用し、効率的な支援活動を行うための軽トラックを、令和6年9月30日に寄贈いただきました。寄贈車両は、生活困窮者の清掃支援活動をはじめとした本会の事業活動に活用していきます。

また、近年多発する水災害時等の被災者宅支援等にも活用していきます。



(4) 職員の資質能力の向上（研修会等への参加状況）

①役職員に関する研修等

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
10月29日	福岡県社会福祉大会	県・県社協	2
12月14日	両筑地区社協連絡会全体研修会	両筑地区社協連絡会	19
1月30日	社協会長事務局長研修	県社協	2

②総務関係研修

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
5月22日	三井消防署による一般救急法講習	市健康課	7
7月13日	市同和問題市民講演会	市・市教育委員会	10
7月30日	ちょっと気になる七夕人権考座 全2回	市教育委員会	5
8月5日	安全運転管理者講習会	安全運転管理協議会	1
12月8日	市人権週間記念講演会	市・市教育委員会 ・市人権擁護委員会	2
12月18日	ホームページ更新作業操作講習	当会	13
1月16日	市町村社会福祉協議会会計セミナー	県社協	1

③地域福祉に関する研修

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
6月28日	県生活支援コーディネーター初任者研修	県地域包括ケア推進課	1
7月1日	生活支援コーディネーター養成研修 全2回	コミュニティライフサポートセンター(略:CLC)	1
7月19日	生活支援コーディネーター連絡会 全4回	県地域包括ケア推進課	1

④相談・権利擁護に関する研修

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
5月9日	久留米市成年後見センター視察	市長寿支援課	3
5月24日	高齢者の権利擁護に関する講演会	市長寿支援課	1
6月27日	JSCP 厚生労働省合同研修会自殺対策と生活困窮者自立支援制度等との連携構築について	いのちささえる 自殺対策推進センター	3

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
7 月 3 日	生活福祉資金事務説明会 全 2 回	県社協	2
7 月 3 日	ひきこもり支援者研修会	県精神保健福祉センター	2
7 月 5 日	成年後見制度利用促進研修会	県社協	2
7 月 20 日	市民後見人養成研修会 全 8 回	県社協	1
8 月 8 日	成年後見制度利用促進基礎研修会	県社協	1
8 月 15 日	成年後見制度を利用するタイミングについて	NPO 法人つなぐ	9
9 月 24 日	生活福祉資金相談支援研修	県社協	1
10 月 18 日	生活困窮者自立支援制度支援ツール活用セミナー	厚生労働省 生活困窮者自立支援室	4
10 月 29 日	生活困窮者自立相談支援事業従事者スキルアップ研修	県福祉労働部保護援護課	3
10 月 31 日	成年後見制度における市町村長申立等研修会	県社協	1
11 月 1 日	社会福祉士実習指導者講習会 全 2 回	県社会福祉士会	1
11 月 13 日	ふくおかライフレスキュー事業サポーター養成研修 全 2 回	ライフレスキュー事務局	2
11 月 15 日	法律相談合同研修会	県弁護士会筑後部会	2
11 月 15 日	県ひきこもり支援者など地域ネットワーク会議	県精神保健福祉センター	2
11 月 20 日	一緒に学びませんか？成年後見制度 全 2 回	うきは市社協	1
11 月 27 日	生活困窮者支援に関する研修会	県社協	1
12 月 22 日	後見人等への意思決定支援研修	長寿社会開発センター	1
12 月 24 日	成年後見制度後見人等への意思決定支援研修会	県社協	1
1 月 14 日	法的トラブル対応研修	日本司法支援センター	3
1 月 17 日	包括的支援体制と地域共生社会・共生社会の実現に向けた総合研修	日本社会事業大学	1
1 月 22 日	生活困窮者自立支援制度人材養成研修 全 2 回	全社協	1
1 月 27 日	成年後見制度利用促進体制整備応用研修 全 3 回	長寿社会開発センター	1
1 月 31 日	電話相談実務者研修会	県地域精神保健協議会	4
2 月 10 日	成年後見制度講座	朝倉市成年後見センター	1
2 月 19 日	包括的な支援体制・重層的支援体制整備事業セミナー	C L C	1
2 月 26 日	県日常生活自立支援事業専門員研修会Ⅱ	県社協	1
3 月 7 日	チームによる権利擁護支援を考える	リーガルサポート	1

⑤ボランティアに関する研修

月 日	研修会等の名称	主 催	参加数
7 月 12 日	介護入門講座	県社協	1
12 月 25 日	福祉教育セミナー	県社協	1
2 月 16 日	きずなフェスティバル	県社協	2
3 月 5 日	広報力強化研修	県社協	1

（５）労働法制に基づいた労務管理

職員の労働状況を適切に把握するため、タイムカードを活用して出退勤を客観的に記録し、時間外勤務や年次有給休暇取得の管理するとともに、健康診断など法令に基づいた労務管理を実施しました。

（６）所轄庁への届出や対外的な法的対応を行う法務に関する業務

受託事業課税に伴う消費税の申告納付並びに法務局への資産変更登記を行いました。また所轄庁へ「社会福祉法人現況報告書」を提出しました。

（７）関係機関との連携

①行政区・校区

会議・事業等の名称	主 催
市区長総務会・研修会	コミュニティ推進課
校区区長会	各校区区長会
校区健康福祉部会	各校区まち協議会
各行政区サロン	各行政区

②行政

会議・事業等の名称	主 催
市子ども・子育て会議	子ども・健康部
市生活困窮者自立支援事業運営会議	福祉課
市生活困窮者自立支援事業運営ネットワーク会議	福祉課
市自立支援協議会	福祉課
市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会	福祉課
市福祉有償運送運営協議会	福祉課
生活支援体制整備事業についての話し合い	長寿支援課
市地域密着型サービス運営委員会	長寿支援課
市地域包括支援センター運営会議	長寿支援課
市包括支援センター会議	長寿支援課
市老人ホーム入所判定委員会	長寿支援課
地域ケア会議	長寿支援課
市民提案型協働事業補助金審査	コミュニティ推進課
三井高校（オゴオリクエスト/地域課題探求授業）	コミュニティ推進課
市国民健康保険運営協議会	国保年金課
市民の健康づくり推進協議会	健康課
市献血推進協議会総会・監査	健康課
あすてらす運営会議	健康課
あすてらすフェスタ実行委員会	健康課
あすてらす避難訓練	健康課
大崎市民館運営審議会	人権・同和対策課
市人権・同和教育研究協議会社会教育部会推進委員学習会	市同研
七夕出前講座	生涯学習課

③民児協

会議・事業等の名称	主 催
県民児協大会	県民児協
民児協総務会・全体会・研修	市民児協
各校区民協	各校区民協
民協2市1町協議会	市福祉課

④社協（県社協・両筑地区等）

会議・事業等の名称	主 催
社協職員オンラインサロン	全社協
県日常生活自立支援事業契約締結審査会	県社協
都道府県共同募金職員オンラインサロン	県共募
十一市社協連絡会	十一市社協連絡会
両筑地区社協連絡会会長局長会・監査・局長会・地域福祉活動部会・ボランティア担当職員意見交換会	両筑地区社協連絡会
県地域福祉活動職員連絡会研修会	県地職連
筑後地区高齢者障害者支援連絡協議会研修会	支援連絡協議会

⑤その他

会議・事業等の名称	主 催
きぼうの家理事会・評議員会	市福祉会
小郡池月苑理事会	市社会事業協会
市青少年市民会議理事会	市青少年市民会議
おむすびころりん応援団例会・学習会	応援団
宝満川一斉清掃実行委員会	小郡ライオンズクラブ
ふれあいオリンピック実行委員会	実行委員会

【地域福祉活動部門】

令和6年度ふれあいネットワークでは、市ふれあいネットワーク推進委員会を開催し、各校区ふれあいネットワーク推進委員会等へ参加し意見交換を行いました。

校区ふれあいネットワーク推進委員会は、校区まちづくり協議会健康福祉部会で開催していただいておりますが、約10年経過しふれあいネットワークを知らない委員も増えている中で校区ふれあいネットワーク推進委員会のあり方を各校区の区長、民生委員児童委員等と引き続き協議することが必要となっております。

福祉教育では総合学習の時間で、今年度も効果的に使用していただけるように白杖の購入や高齢者疑似体験セットの寄贈があり、車いすなどの貸し出しを行いました。提供している福祉教材、福祉用具の用途詳細が把握できていないところもあり、現場の先生との協議の場が必要です。

広報活動では、ホームページへのご意見を受け、見直しの機会を設け情報更新に取り組みました。

生活支援体制整備事業では、各種相談窓口や居場所づくりに取り組んでいる団体の活動を集約した「ささえ愛おごおりガイド帳」をカラーで更新し冊子化しました。地域のゆるやかな見守りをする人材を地域の協力者として増やしつつ支え合う活動につなげていく事が今後の課題です。

ボランティア情報センターでは、SNSを活用し小都市にボランティア情報を発信しました。福祉施設からの依頼や、地域の集まりなどにボランティアの派遣を行いました。

地域の課題としては担い手の減少により活動が縮小してきていることが多くなっていることや、個人情報保護法により、情報のやり取りがスムーズに行えなくなり支援などが届けにくい状況になっており、情報共有の方法について各協議体や、地域の方々と話し合いを行う機会を設ける必要を感じています。

1. 地域福祉活動

(1) ふれあいネットワーク活動の推進

地域福祉係では、地域に住む住民一人ひとりが、それぞれの立場から無理のない形で孤立しがちな高齢者や支援が必要な対象者への声かけ訪問、見守りを行う小地域福祉活動「ふれあいネットワーク」活動支援を行い、支援が必要な高齢者等の悩みや問題等に早期に気づき、区長・民生委員児童委員や関係機関と連携し、その問題を解決する活動を推進しました。

① 組織的推進体制の強化

【小郡市ふれあいネットワーク推進委員会】

5月17日	≪協議事項≫ ・推進委員会委員の交代について ・令和5年度 事業報告・決算報告の承認 ・令和6年度 事業計画(案)・予算(案)	小郡市総合保健福祉センター
-------	--	---------------

【各校区推進委員会活動状況】

校 区	推進会議 等回数	研修会・校区カフェ、サロン等
小 郡	—	
大 原	1	8/27 おおはらコミュニティー食堂 参加者 90 名 12/21 おおはら市場ふれあいもちつき体験 参加者 200 名 おおはらカフェ 10 回開催
東 野 (専門委員会)	4	6/1 「つながりワーカー」研修会 参加者 20 名 10/17 「泌尿器科の先生による出前講座」参加者 25 名 ふれあいネットワーク専門委員会 4 回
三 国	12	10/27 ヒロ&エリ コンサート 参加者 10 名 7 月 「タッピングタッチ」 参加者 23 名 他 4 回開催
のぞみが丘小	7	9/14 自分サポートプロジェクト 参加者 26 名 2/9 レクリエーション大会 参加者 32 名
立 石	7	5 月～R7 2 月 くろつちカフェ 参加者延 481 名 6/24 救命講習会 参加者 38 名 11/4 立石 SOS ネットワーク検索、声かけ模擬本訓練 参加者 64 名
御 原	4	11/21 校区推進委員会 各行政区活動報告社協意見交換会 参加者 15 名
味 坂	7	4 月～3 月 カフェあじさか広場 全 12 回参加者延 365 名

【ふれあいネットワーク校区推進費】

各校区のふれあいネットワーク活動を推進する事業に対し、活動支援を行いました。

校 区	助成金額	校 区	助成金額
小 郡	申請無	のぞみが丘小	56,000 円
大 原	62,000 円	立 石	72,000 円
東 野	60,000 円	御 原	62,000 円
三 国	70,000 円	味 坂	56,000 円
		合 計	438,000 円

【ふれあいネットワーク活動情報共有】

令和6年度も各校区、行政区のふれあいネットワーク活動に関する会議などへ職員が参加し、区長や民生委員児童委員等と情報共有を行いました。

②各行政区ふれあいネットワークの推進

各行政区のふれあいネットワークの推進にあたり、サロン活動の内容充実のために「サロン等の集まりでできる講座一覧表」を作成し、区長や民生委員・児童委員等へ配布しました。また、一般企業などからの無料講座開催案内依頼もあり企業ならではの企画があり、認知症講座などと一緒にを行う血管年齢測定や乳酸菌飲料の無料配布など内容が充実してきました。

【ふれあいネットワーク活動助成事業】

各行政区において、支援が必要な高齢者などの悩みや問題に早期に気づく声かけや見守り活動に係る経費、身近な公民館等を利用し外出のきっかけや地域の交流を目的としたサロンの様な開催を目指す各区での事業に対し、助成金を交付し活動の推進を図りました。

令和 6 年度	申請 62 行政区中 59 行政区	助成額 2,730,000 円
令和 5 年度	申請 62 行政区中 58 行政区	助成額 2,690,000 円
令和 4 年度	申請 62 行政区中 58 行政区	助成額 2,670,000 円

【脳トレ！宝満ノート配布】

福祉なんでも相談の周知と、新型コロナウイルスの影響により、各区の集いの場であるサロン活動や見守り活動の実施が困難となったため、「脳トレ！宝満ノート」を作成し、見守り活動等に活用して頂けるよう区長や民生委員児童委員等協力のもと配布しました。

【令和 6 年度配布実績】

校区／脳トレ	13 号 (冊)	14 号 (冊)	15 号 (冊)
小 郡	256	250	令和 7 年度 4 月周知・ 配布開始
大 原	175	135	
東 野	120	140	
三国小	660	755	
のぞみが丘小	65	50	
立 石	193	150	
御 原	70	81	
味 坂	256	326	
校区コミュニティーセンター等	705	613	
合 計	2,500	2,500	

【救急医療情報キット】

単身世帯のため急病等で倒れてしまった場合、緊急通報先等の情報を救急隊員に確実に発することができるよう「救急医療情報キット」を配布しました。

また、救急医療情報記載内容変更、更新作業を随時行い、令和 6 年度は救急医療情報キットの活用について各校区の区長会や校区民生委員児童委員協議会会議へ説明に行き、啓発活動を行いました。令和 7 年度も随時啓発を行う予定です。

【救急情報キットの配布状況】

累計令和 7 年 3 月末日現在

校 区	件 数	校 区	件 数	校 区	件 数
小 郡	92	立 石	30	三 国	156
大 原	146	御 原	28	のぞみが丘小	3
東 野	28	味 坂	30	合 計	513

③「ふれあいネットワーク」研修会

今年度は、市コミュニティ推進課主催の区長研修会にてふれあいネットワーク活動の代表である区長へ「ふれあいネットワーク」の重要性を再確認し、小地域福祉活動を推進していただくよう、研修を行いました。

日 時：令和6年8月20日（火） 14：30～17：00

研修内容：①ふれあいネットワークについて説明

②平時の見守りについての事例発表

下町区取組・大保原区取組

③グループワーク 講師：貞清 潔氏

「もしもの時に、いざという時に備えて みんなで見守り、
助け合い、支え合い」

参加者：区長58名 民生委員児童委員24名 計82名

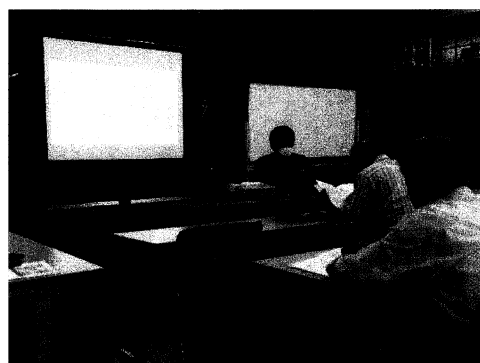
【七夕出前講座】

市が行っている仕事の中で、市民の皆さまが日ごろ知りたい・聞きたいと思っている内容を講座メニューの中から選んでいただき、依頼があり「ふれあいネットワーク」出前講座を行いました。

6/21 10:00～12:00	講義「ふれあいネットワーク」について 参加者：選挙管理委員会女性部 10名
7/2 13:20～14:50	講義「ふれあいネットワーク」 参加者：平岡介護福祉専門学校1・2年生 60名
9/19 10:00～12:00	講義「ふれあいネットワーク活動について」 参加者：古賀区老人クラブ青陽会 13名



平岡介護福祉専門学校



古賀区老人クラブ

2. 福祉教育事業

(1) 児童・生徒の福祉教育の支援

① 福祉教育教材「ともに生きる」を配布

学校や家庭での福祉教育教材として活用するため、希望があった市内の8小学校の4年生と特別支援学校小学部に662冊無償配布しました。

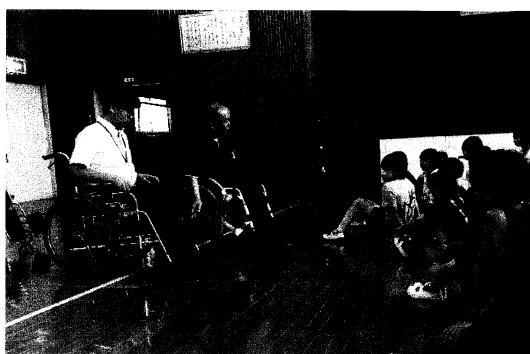
② 福祉教育協力校の活動助成

学校名	福祉活動協力校の主な活動内容
大原 中学校	・意識啓発活動 性に関わる差別や暴力をなくすための医療・福祉の意義について学ぶ ・平和学習 高校生平和大使から平和の尊さや平和大使としての活動の意義を学ぶ。 ・車椅子ユーザー（日本車椅子ラグビー選手）からの講話・交流 ・平和学習（大刀洗フィールドワーク） 身近な地域の戦争実態をフィールドワークを通して平和の大切さを学ぶ ・福祉関係の書籍で福祉に関する興味・関心を高める
三国 中学校	・人権学習 戦争体験語り部の講和の中で、戦災によって社会的に弱い立場にある人々（障がい者・子ども等）が犠牲になった事例を学ぶ。 ・職業学習 医療関係従事者・福祉関係従事者の講和にて医療や福祉への関心・理解を高める。
小郡 中学校	・小郡特別支援学校と交流（歌・ダンスをとおして交流を行い、手作りのメダルを贈る）
立石 中学校	・福祉体験事前学習（福祉について、共生社会についての学習） ・福祉体験学習（三井高校福祉教養コースの生徒による講話と手話体験）
御原 小学校	・車椅子ユーザーの方との交流 ・視覚障がい者、盲導犬との交流学習 ・聴覚障がい者の方との交流 ・手話体験、点字体験 ・アイマスクと白杖体験学習 ・小郡特別支援学校と手紙を通して交流 ・高齢者施設「池月苑」へ訪問し交流 ・赤い羽根共同募金活動
大原 小学校	・「伝え合おう、わたしたちの心」障がいがある方や認知症への見方・考え方についての学習、視覚障がい者・盲導犬との交流、点字体験（4年） ・「大原小アグリカルチャー大作戦」米作り体験（5年）で地域の方々と交流を深める（2年）
東野 小学校	・赤い羽根共同募金活動 ・視覚障がい者、盲導犬との交流 ・人権の花ひまわりの栽培（5月） 花づくりを通して人権について考える ・点字体験 ・手話体験 ・認知症サポーター養成講座
三国 小学校	・「みんなにやさしいまちづくり」障がいがある方や認知症への見方・考え方についての学習（4年）・社会福祉理解促進活動 視覚障がい者・盲導犬との交流、難聴者との交流、車椅子ユーザーとの交流、認知症サポーターの学習
立石 小学校	・社会福祉理解促進活動 点字体験、盲導犬ユーザーの方との交流（4年） ・小郡特別支援学校との交流（2年）、高齢者との交流活動 ひょうたん作り（4年）、地域の高齢者に郷土料理を学ぶ（3、4、5、6年）。認知症サポーター養成講座（3年） ・意識啓発活動 赤い羽根共同募金活動
味坂 小学校	・社会福祉理解促進活動 視覚障がい者、盲導犬との交流。手話体験、聴覚障がい者と交流 ・意識啓発活動 障害者福祉施設（風の丘）の施設長から「障がい」に対する見方について講話を聴く ・地域づくり活動 地域行事参加（あじさかポピー祭り・ポピーの里あじさか館「カフェあじさか」） ・赤い羽根共同募金活動
小郡 小学校	・社会福祉理解促進活動 デフサッカー選手との交流、聞こえについての講話、白杖・アイマスク体験、視覚障がい者、盲導犬との交流 ・赤い羽根共同募金活動

学校名	福祉活動協力校の主な活動内容
のぞみが丘小学校	・社会福祉理解促進活動 総合的な学習「よりよい暮らしをめざして」視覚障がい者との交流、点字体験、アイマスク・白杖体験、車いす・車いすバスケットを体験 ・地域美化活動 ・赤い羽根共同募金活動
小郡特別支援学校	・「中学部花いっぱい運動」自分たちが育てた花と作業作品を、近隣の高齢者施設・駐在所・松崎駅などに贈呈し、親愛や感謝の気持ちを伝える（社会福祉理解促進活動）

③ 総合学習への対応

小中学校で行われている人権学習や福祉体験学習の取り組みに対し、講師の紹介や備品の貸出しなどを行い、学習支援を行いました。



御原小学校 4 年生総合学習の様子。「つながろう人と」の学習において、車椅子ユーザーの方より生活の様子をお話いただいた後は、車いすの体験の指導をいただきました。
(令和 6 年 6 月 21 日)

(2) 福祉用具教材の貸出しなどによる福祉体験学習支援

高齢者や障がい者に対する理解を図るため車いすや白杖、アイマスク、高齢者疑似体験教材等の貸出を行いました。

【貸出件数】

	車いす	アイマスク	白杖	点字板	高齢者疑似体験
令和 6 年度 利用件数	43 台	148 枚	81 本	142 台	16 セット

教材の利用は、小中学校の福祉体験授業が多いですが、ここ数年前より保育園でも園児や保護者を対象にした福祉体験会や地域で開催される災害避難訓練のカリキュラムの一つとして車いす体験に取組まれるなど、地域に学習が広がっています。



【寺福童区の子車椅子体験の活動様子
(令和 6 年 10 月 6 日)】
災害避難訓練に車いすを 3 台利用されたあと、車椅子操作の体験会が行われました。

(3) 広報活動

多くの市民に福祉情報を提供できるよう、広報紙やホームページ、案内チラシ等を通じて広報活動を行いました。

① 年4回「小郡市社会福祉協議会だより」を発行

発行状況			
192号(6月1日発行) 特集:地域づくりの木をはぐくむ ささえ愛おごおり生活ガイド帳より抜粋し、地域活動を紹介。	2024 6 No.192 おごおり 社会福祉協議会だより 192 地域づくりの木をはぐくむ  おごおり生活ガイド帳より抜粋し、地域活動を紹介。	194号(12月1日発行) 特集:こどもの笑顔をめざして 「不登校」に心痛める子どもたちに何ができるか、長阿彌先生を講師に招いた講演会の内容を特集で伝達した。主催:ボランティア連絡協議会	2024 12 No.194 おごおり 社会福祉協議会だより 194 こどもの笑顔をめざして  おごおり生活ガイド帳より抜粋し、地域活動を紹介。
193号(9月1日発行) 特集:赤い羽根共同募金共同募金配分金による活動状況を紹介 また、10月からの共同募金運動のご協力を広報	2024 9 No.193 おごおり 社会福祉協議会だより 193 赤い羽根共同募金運動  おごおり生活ガイド帳より抜粋し、地域活動を紹介。	195号(3月1日発行) 特集:ボランティア情報センターの活動紹介。また、令和6年度の共同募金運動の実績報告を掲載。	2024 3 No.195 おごおり 社会福祉協議会だより 195 ボランティア情報センター  おごおり生活ガイド帳より抜粋し、地域活動を紹介。

② ホームページを活用した情報提供

必要な情報を必要な方へより伝わりやすくするために、ホームページを編集中です。各係で情報の掲載内容等を検討し、更新に努めています。

③ 取材については、目的を伝え写真撮影の承諾や掲載承諾をいただくなど、個人情報に配慮に努めました。

④ その他の情報伝達媒体を活用した広報活動

講座やボランティア募集の案内チラシ等は、手に取ってもらえるようデザインに工夫を凝らした作成に努めました。

(4) 実習生の受け入れ

① 社会福祉士を目指す学生の現場実習を受け入れ、プログラムを組み、地域福祉におけるソーシャルワークをより実践的に学ぶことを心がけ、九州医療専門学校実習生を受け入れました。

令和6年7月8日～7月25日の内 10日間 1名

② 社会福祉分野の実践者、専門職の育成を目的とした社会福祉援助技術実習「地域の社会資源」について、久留米高等技術専門校介護サービス科の学生を受け入れました。久留米高等技術専門校のカリキュラムが年間二期制から一期制に変わったことにより実習の回数が一回になりました。

令和6年11月22日(金) 10:00～15:00 14名

3. 生活支援体制整備事業の実施

介護保険の地域支援事業の「生活支援体制整備事業」を一部受託し、重層的支援体制整備事業の「地域づくりに向けた支援」を推進するため生活支援コーディネーターを市・市社協に配置し、高齢者の方々が住み慣れた地域で生きがいを持って生活が継続していくための介護予防啓発活動や支え合いの地域づくりを推進しました。

また高齢者を対象に相談窓口や居場所づくりに取り組んでいる団体の活動を紹介し、情報提供を行いました。

(1) 「人と人をつなぐ」情報の収集

①高齢者など孤立することなく、生きがいを持って生活を送れるように相談窓口や居場所づくりに取り組んでいる団体の活動を集約した冊子「ささえ愛おごおり生活ガイド帳」作成し、配布しました。

ささえ愛おごおり生活ガイド帳配布先	配布部数
① 市役所、包括支援センター、関係機関	100
② 地域（区長、民生委員児童委員、老人クラブ、推進委員）	511
③ 掲載先、ボランティア、窓口	189
合 計	800

ささえ愛おごおり
生活ガイド帳

地域のシニア世代の生活向上、生きがいづくり、介護予防に役立つ「情報」を集めた小冊子です。



小郡市社会福祉協議会（令和6年3月）

ささえ愛おごおり
生活ガイド帳

②地域資源を調査し、居場所づくりに取り組んでいる団体活動の支援や高齢者の社会参加につながるように「人と人をつなぐ」コーディネートを行いました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	9	1	1	6	8	5	8	12	5	1	5	4	65

(2) 「人と人をつなぐ」人材の養成

「地域支え合い推進員」、「つながりワーカー」講座を開催し、地域の支え合い活動を推進する方や地域で孤立している人に気づき、つながり、見守る人材を養成し、地域の支え合い活動や地域の見守り活動を推進していただきました。

① 地域支え合い推進員養成講座の開催（全2回）

内 容：高齢者を取り巻く課題を理解し、支え合いの仲間を見つけ、地域の支え合い活動を推進する方を養成する講座を行いました。

参加者延：33名

開催会場：小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」

月 日	内容	講師	参加者数
8月19日	「きこえと認知症との意外な関係」～地域（みんな）で支え合うことの大切さ～	社会福祉法人ラポール風の丘 言語聴覚士 梶 史人氏	18名
8月26日	「認知症の方と共に暮らすまちづくり」	社会福祉法人長生会 法人本部事務局 森山 定行氏	15名

② つながりワーカー養成講座(映像プログラム)

内 容：地域のつながりの希薄化や経済状況の悪化など孤立のリスクが高っています。そこで、孤立に気づき、つながり、地域の見守る人材「つながりワーカー養成講座」を6回行いました。

映像監修：ルーテル学院大学 福島 喜代子氏

参加延べ人数：129名

月 日	内 容	参加者数
4月2日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳について	10名
5月7日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳について	8名
6月1日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳について	20名
6月19日	つながりワーカー講座・見守りについて	53名
6月20日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳について	13名
9月27日	つながりワーカー講座・見守りについて	25名

③ ささえ愛隊小郡活動等

地域支え合い推進員養成講座を受講した推進員(愛称：ささえ愛隊小郡/登録会員20名)が地域の活動支援を行いました。

- ・居場所サポーター(居場所運営のお手伝い) 派遣延べ人数：59名
- ・出張サポーター(介護予防などの啓発活動) 派遣延べ人数：10名

派遣内容	派遣先	派遣回数	派遣人数
居場所サポーター	いこいのもりカフェ	12回	33名
居場所サポーター	なごみカフェ	5回	10名
居場所サポーター	みつゆきカフェ	2回	4名
居場所サポーター	西福童レクの集い	6回	12名
出張サポーター	いこいのもりカフェ	1回	1名
出張サポーター	なごみカフェ	5回	5名
出張サポーター	おしゃべり訪問	2回	4名

(3)「人と人をつなぐ」方々の輪を広げる

地域の高齢者をはじめとする住民が、安心した生活を地域で継続できることを目的として、関係機関や地域の方々と検討会議や交流を行い、ネットワークづくりを推進しました。

また、介護予防活動や地域の支え合い活動を行う他市町村の視察研修や先進的な取り組みの情報を提供しました。

① 自立支援型ケア会議

ケアマネジャーが抱えている課題をアドバイザー(市、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、保健師、社会福祉士、生活支援コーディネーター等)が検討を行い、自立した生活を営むために支援を行いました。

会議名	内 容	回数
地域ケア会議(東包括)	事例検討(2事例)	2回
地域ケア会議(西包括)	事例検討(2事例)	2回
地域ケア会議(南包括)	事例検討(3事例)	2回

②会議、視察研修など

月 日	内 容
5 月 2 日	三国校区まち協議会会議「買い物支援について」
6 月 10 日	明治安田生命「サロンで出来る講座について」
6 月 11 日	大原校区民生委員児童委員視察研修「認知症フレンドリーセンター」
6 月 17 日	ささえ愛隊小郡定例会「今後の活動について」
6 月 24 日	立石校区健康福祉部会・立石中研修「救命救急体験」
6 月 28 日	生活支援コーディネーター研修「生活支援体制整備事業の目的」
7 月 1 日	生活支援コーディネーター研修「SC のための地域マネジメント」
7 月 19 日	生活支援コーディネーター連絡会「アドバイザー派遣事例発表」
7 月 30 日	大原・立石校区民生委員児童委員協議会視察研修 「うきはの災害時の取り組み」
7 月 31 日	生活支援コーディネーター研修「地域資源の見える化、活かし方」
8 月 6 日	民生委員児童委員全員協議会研修「孤立死防止のためにできる事」
8 月 20 日	区長研修「区の取り組みについて」
9 月 9 日	ささえ愛隊小郡定例会「私たちができる事」
9 月 11 日	三国校区まち協議会会議「買い物支援について」
9 月 25 日	三国校区まち協議会研修「味坂移動販売車視察」
10 月 17 日	生活支援コーディネーター連絡会「2040 年の社会課題と対策」
10 月 6 日	寺福童区防災訓練「避難訓練（1 次・2 次）車いす体験」
10 月 18 日	地域職員連絡会「地域住民との関わり方を考える」
10 月 22 日	三国校区まち協議会研修「のぞみ小校区自治会バス視察」
10 月 23 日	三国校区まち協議会研修「みはら校区自治会バス視察」
10 月 25 日	大原校区民生委員児童委員会議「地域福祉について」
11 月 5 日	小郡校区民生委員児童委員会議「救急医療情報キットについて」
11 月 19 日	区長視察研修「山鹿市 SOS キーホルダー・見守り体制について」
11 月 21 日	御原校区区長、民生委員児童委員協議会「救急医療情報キット」
11 月 22 日	東野校区健康福祉部会研修「地域で安心して暮らし続けるために」
11 月 24 日	のぞみ小校区まち協議会「防災模擬訓練」
11 月 25 日	ささえ愛隊小郡定例会「居場所づくり、地域の高齢者の事例」
12 月 5 日	三国校区まち協議会視察研修「みやま市移動販売、買い物支援」
12 月 10 日	大原校区民生委員児童委員会議「西包括、防災講座、意見交換」
12 月 16 日	三国校区まち協議会研修「買い物支援の今後の取り組み」
12 月 18 日	生活支援コーディネーター連絡会「身寄り問題について」
1 月 10 日	ささえ愛隊小郡定例会「セルフケア：腸ほぐし」
1 月 18 日	三国校区まち協議会研修「買い物支援今後の計画と課題」
1 月 21 日	認知症の方の未払い行動について考える研修
2 月 7 日	生活支援コーディネーター連絡会「商助による暮らしやすい地域」
2 月 12 日	東野校区健康福祉部会視察研修「うきは市の地域の支え合い活動」
3 月 5 日	東野校区健康福祉部会研修「R6 年度振り返り・R7 年度事業計画」
3 月 6 日	三国校区健康福祉部会「認知症カフェ研修」
3 月 21 日	東地区包括支援センター「生活支援体制整備事業について」

4. 福祉団体活動支援

地域の様々な課題に柔軟に対応するため共同募金配分金を財源として、公募により総額6, 183, 516円の配分を行いました。

No.	団体名	事業の内容
1	宝城つどいの家	高齢者が近隣の連携で見守り支援事業として月1回から3回程度公民館等を居場所として集まり、健康体操認知症予防講座などを行う
2	傾聴ボランティア「でんでん虫」	傾聴入門・スキルアップ講座
3	おもやい広場「くまさん文庫」	毎週土曜日開催。絵本の読み語り、紙芝居、本の貸出を行い子育て相談支援活動、会報誌発行スタッフ読み語り研修
4	NPO 法人しょうがい者と共に生きるみんなのかえるランド	障がい者の教育・生活支援・生活相談に関する事業 折り畳み台車やハンガーラック購入費用
5	おごおりこどもひろば	週末学校休業日などに食事提供をし、安心して過ごせる、小中学生のこどもの居場所づくり
6	小郡市老人クラブ連合会	高齢者支援、見守り、触れ合い活動等（健康体操、フレイル講座等）
7		健康保持、スポーツ、健康講習活動等（グラウンドゴルフ大会、ダーツ大会等）
8	小郡市身体障害者福祉協会	福岡県障がい者スポーツ大会、ふれあいオリンピック等への参加、グラウンドゴルフ大会、フライングディスク大会への参加
9	小郡市母子寡婦福祉会	親子レクリエーションで水族館やクリスマスツリー作成
10		一日父親行事をみい青年会議所の協力により筑紫野スポーツランドにて交流
11	小郡警察署少年補導員連絡会	青少年非行防止・少年補導活動として、月2回の市内パトロールと年2回の深夜パトロール
12	小郡市保育協会	保育所が子育て支援をより充実させるために新人保育士向けフレッシューズ研修、大学講師などを呼び講演・実習・ディスカッションを行う「インクルーシブ保育研修」実施
13		保育フェスタ in おごおり開催、チラシ制作、講師を招いて親子遊びの実施
14	小郡市民生委員児童委員協議会	地域福祉広報啓発とし、横断幕、のぼり旗、パンフレット、ポケットティッシュ、そして広報紙を作成
15		民生委員児童委員資質向上研修会
16	小郡市青少年育成市民会議	おごおりっ子からのメッセージ主張大会開催、メッセージ文集の作成
17		広報「市民会議だより」の発行
18	小郡点訳堂の会	市内小学校での点字学習指導、久留米高等技術専門校への点字指導、盲人会への情報提供、盲人会との交流、情報誌点訳発送、NPO 法人サポネットおごおり総会・理事会資料点字協力

19	小郡手話の会	手話の習得（研修・活動）と広報紙発行、活動者へのボランティア保険加入
20	小郡テープの会	市報の朗読録音、録音 CD 発送、NHK 日本語朗読セミナー参加
21	小郡要約筆記の会「たなばた」	聴覚障がい者支援サポーター講座・難聴者との交流会
22	日本車椅子レクダンス協会 小郡支部	身体不自由でも、高齢でもレクリエーションが楽しめるように車いすレクダンスを普及啓発活動
23	小郡市ボランティア連絡協議会 (ボラ連)	小郡市ボランティア連絡協議会の広報紙発行や講師を招いての講演会、各ボランティアイベントへの参加啓発
24		共に生きるまちづくり、またボランティア育成を推進するボランティア養成講座を全 5 回講演会や映画上映で啓発
25	福祉教育協力校 市内小中学校 13 校	福祉体験授業、高齢者・障がい者との交流や認知症サポーター養成講座の授業
26	おごおりレク健康隊	ふれあいネットワークのサロン等で地域の高齢者などを元気にする健康・レクリエーション活動を行うための講習
27	セラピューティックケア 「えがお」	高齢者施設、小学校特別支援学級、ふれあいネットワークのサロンなどに訪問、スキルアップ研修会

5. 機材等の貸出

地域活動の活発化を目的に、地域で活動する団体等の交流に輪なげやダーツ等のレク道具を貸出やまた、防災訓練やイベント等で使用するテントや放送機器、移動式エアコン等を貸出しています。

安全に安心して借用いただくように、使用前後は機材の点検整備を行いました。

これらの機材等利用がしやすいように、ホームページや広報紙でPRに努めます。

【主な無料機材の利用数】

- ・レク用具はレク隊により活用いただき、レク隊の活動をきっかけに地域の活動でも利用が増えました。

ダーツ	カラオケセット	ビンゴゲーム	輪なげ	レールゲーム	点鳥ルーレット	ボーリングゲーム	公文式数字盤	移動式エアコン	放送機材	テント
5 回	5 回	9 回	2 回	8 回	3 回	0 回	0 回	1 回	10 回	0 回

【有料機材（1000 円/1 回）】

- ・地域のお祭りや団体行事での利用は地域の方に喜ばれています。

綿菓子機	電動かき氷機	手動かき氷機
11 回	8 回	1 回

6. ボランティア情報センター事業

ボランティア情報センターでは、活動室の管理や備品の貸し出し、ボランティアに関する情報の収集・提供・活動支援、相談受付・コーディネート、ボランティアの養成講座の開催、ボランティア連絡協議会の運営支援等を行いました。

また、令和6年度はボランティア登録台帳の整理を行い、令和6年度3月末までのボランティア登録者752名に登録継続の確認をとりました。

継続希望者219名、継続を希望しない人等533名。よって、令和7年度4月1日の時点での登録数は219名です。

【ボランティア情報センター活動・利用状況・相談・登録・斡旋・保険加入実績】

月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
登録団体数			18	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
登 録 人 数			0	3	1	0	0	1	0	2	1	0	0	0	7
ボランティア情報センター	利用回数	午前	4	8	9	3	2	1	3	0	1	2	1	3	37
		午後	2	3	4	0	4	4	1	3	1	1	3	3	29
		夜間	6	5	6	6	5	5	5	10	5	5	7	10	75
		終日	4	3	1	2	1	3	2	4	1	4	4	5	34
		合計	16	19	20	11	12	13	11	17	8	12	15	21	175
	利用人員	午前	16	30	64	23	22	3	17	0	9	18	1	23	226
		午後	9	11	14	0	28	27	2	17	1	19	21	12	161
		夜間	49	37	23	36	18	26	44	51	37	48	59	78	506
		終日	37	16	2	7	4	22	7	21	4	21	26	29	196
		合計	111	94	103	66	72	78	70	89	51	106	107	142	1089
活動室利用	利用回数	午前	8	6	7	7	8	8	6	6	7	6	6	7	82
		午後	8	7	9	11	4	5	5	7	5	6	6	4	77
		夜間	7	8	9	9	9	8	8	10	5	6	6	7	92
		終日	7	7	3	5	4	4	4	6	2	3	3	4	52
		合計	30	28	28	32	25	25	23	29	19	21	21	22	303
	利用人員	午前	100	38	72	82	77	56	54	48	91	53	70	52	793
		午後	67	46	61	66	17	29	25	52	37	96	62	78	636
		夜間	72	93	86	92	78	99	88	120	54	67	134	85	1068
		終日	107	59	28	39	29	46	34	51	20	22	20	28	483
		合計	346	236	247	279	201	230	201	271	202	238	286	243	2980
保 険	件数 (件)	7	11	6	8	4	5	7	8	2	1	6	23	88	
	人数 (人)	115	156	62	121	185	97	208	183	21	42	80	361	1631	
相談件数 (件)			7	11	13	17	10	12	6	11	2	3	15	7	114

(1) ボランティアに関する情報収集と情報提供

- 情報収集：両筑社協のボランティア担当職員意見交換会に年2回(6/17・12/16)参加しました。意見交換を通してボランティア講座開催の講師や講座の内容、チラシ作成の注意点など認識を深めることができました。
- 情報提供・活動支援：ボランティア団体の活動状況やイベント等の情報、また助成金などの情報を掲示板でお知らせしたり、ホームページ・LINE等で情報提供しました。また、年に3回発行する機関紙(ぼらネット)を各コミュニティセンターや市内福祉施設(17ヶ所)に配布しました。

(2) ボランティア相談・登録斡旋

相談件数は、114件、そのうちコーディネートが成立したのは61件

- 障がい者支援43件(庭の清掃や、スポーツの支援、病院付添い等)
- 演芸ボランティア14件(敬老会、地域のふれあいネットワーク、秋祭り等)
- その他4件(託児、花火大会の警備、施設イベントの設営や見守り等)

(3) ボランティア養成講座の開催

①福祉レクリエーションボランティア講座の開催 (全10回)

全10回開催し、若年層含む新規参加者が6名でしたがおごおりレク健康隊への参加はありませんでしたが、地域で活動していただいています。

日時：令和6年9月3日(火)～令和6年11月5日(火)

内容：地域のふれあいネットワークのサロン活動等で活躍していただくボランティアの方を養成することとレクリエーションを通して仲間づくりや健康な体づくりをしながらレクリエーションを習得していただく講座を行いました。

講師：福岡県レクリエーション協会
理事 緒方 初美 氏他

開催場所：小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」内多目的ホール



【参加者延べ275名】

回	開催日	内 容
1	9月3日	関節の可動域を広げるしなやかメソッドとレク式体力チェック
2	9月10日	身近な物を使って遊ぶレクリエーションゲーム①
3	9月17日	カードを使ってゲームをアレンジするコツを学ぶ
4	9月24日	音楽を使って楽しく体操
5	10月1日	ニュースポーツ用具を使って楽しむ
6	10月8日	身近な物を使って遊ぶレクリエーションゲーム①
7	10月15日	マジックでコミュニケーション
8	10月22日	音楽を使って楽しく体操
9	10月29日	介護レクリエーションサポーターを目指す① 「自主的・主体的に楽しむ力を育む展開方法を学ぶ」
10	11月5日	介護レクリエーションサポーターを目指す② 「良好な集団づくり・信頼関係づくりの方法を学ぶ」

② 災害ボランティア講座

災害ボランティアに関する心得等の基礎知識を習得し、防災に関する興味関心を持つことを目的に開催しました。

月 日	開催場所	テーマ及び講師名	参加者数
5月26日	あすてらす 多目的ホール	「災害時の避難所運営ゲーム（HUG）」 講師：おごおり☆防災士会 大井昌也氏	三井高校生 10名 小郡高校生 4名 引率 1名 合計 15名



③ ふくしセミナー（地域ボランティア講座）

地域の社会福祉資源（高齢者施設等）についてもっと知りたい、また終活について学びたいという地域の方々のニーズに沿って講座を開催しました。講座の資料として介護保険制度や高齢者施設の特徴をまとめた「施設選びハンドブック」を作成しました。



月 日	開催場所	内 容	参加者数
9月7日	あすてらす 視聴覚室	「高齢者施設ってどんなところ？」	60名
9月14日	あすてらす 視聴覚室	「終活セミナー」	60名

(4) ボランティア連絡協議会の運営支援

○小郡市ボランティア連絡協議会の事務局を担い、支援を行いました。

月 日	内 容
4月2日	会計監査
4月16日	第1回役員会
5月19日	総会 46名参加 講演会 福岡県立三井高等学校 内田 洋子先生、ボランティア部 「三井高校のボランティア活動に学ぶ」
6月3日	第1回理事会
7月29日	第2回理事会
30日	ぼらネット60号発行
9月12日	第3回理事会
10月5日	第1回喜楽塾（不登校の現状とその支援について） 受講生23名参加
10日	第4回理事会
20日	第21回あすてらすフェスタ
26日	第26回ふれあいオリンピック 22名参加
11月2日	第2回喜楽塾（ヤングケアラーについて考えよう）受講生29名参加
14日	第5回理事会
29日	ぼらネット61号発行
12月14日	第3回喜楽塾（ボラ連団体紹介） 受講生33名参加
1月18日	第4回喜楽塾（ボランティア体験コーナー）受講生30名参加
23日	第6回理事会
2月8日	第5回喜楽塾（映画上映「ビューティフル・マインド」） 受講生43名参加
16日	きずなフェスティバル 34名参加
20日	第7回理事会
3月8日	ボラ連交流会 27名参加
28日	ぼらネット62号発行

○個人ボランティア連絡会の事務局を担い、支援を行いました。

月 日	内 容
7月19日	第1回例会
11月5日	視察研修(大川市)
3月14日	第2回例会

(5) ボランティア活動支援

助成情報を関係団体に提供し、申請支援などを行った結果、複数の団体が実際に助成を受けることができました。

○みずほ教育福祉財団「ボランティア活動資金助成事業」1件

○「福岡県こども食堂応援プロジェクト2024」1件

永年のボランティア活動による地域貢献に対し、福岡県立三井高等学校を推薦し厚生労働大臣表彰を受賞されました。

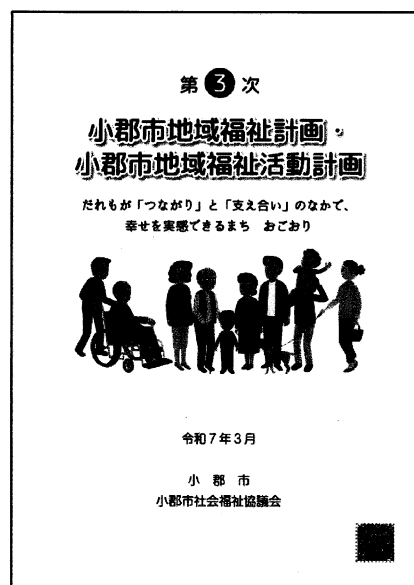
(6) 災害ボランティアセンター

能登半島地震など被災地災害ボランティアセンターにボランティア活動へ行くための保険加入手続き。 15件

7. 地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体的策定

令和6年度末に第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の計画期間が満了することから、多様化・複雑化する地域福祉を取り巻く情勢の変化を踏まえて、市民をはじめ地域の多様な人・団体・機関が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、市民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向け、小郡市における地域福祉を推進していくため第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定しました。

当会は、地域福祉の推進を使命とする団体として、市と連携して本計画の推進役を担います。市民や各種団体、社会福祉を目的とする事業者との調整役として、本計画に対する理解と協力を求め、さらに本計画の活動に参画してもらいながら、本計画の推進を図ります。



【相談支援・権利擁護部門】

この部門を担う生活支援係では主に、生活困窮者自立支援事業、資金貸付事業、無料相談の相談部門と日常生活自立支援事業及び成年後見支援センターの権利擁護部門に分かれ事業を実施しました。

相談支援・権利擁護部門は、「断らない」相談を念頭に、地域住民のあらゆる地域生活課題を受け止め、問題解決を支援する部門です。

事業に係る相談内容もさることながら困りごとが複合しており、制度の隙間に対しどう取り組むかが課題となっています。

権利擁護を担う日常生活自立支援事業はここ数年利用者が横ばいとなっております。長期間利用されている方の中には判断能力が低下し成年後見利用の検討が必要と思われる方が増えてきました。しかしながら、直ちに成年後見を利用すべきかどうかは成年後見支援センターでは判断ができず、関係機関の合意が必要と思われます。

コロナ特例貸付の借受人の中で、通知を出しても連絡がない、電話しても出られない、償還も一度もしていない、いわゆる未応答者の中で、外国籍の方の追跡が困難で全国的な課題と言われています。

1. 生活困窮者自立支援事業

(1) 自立相談支援事業

様々な理由によって生活困窮に陥った方への支援を行う生活困窮者自立支援事業を小郡市より受託し実施しました。令和6年度の相談件数は112件で前年度の117件とほぼ横ばいの相談件数となりました。物価高騰の背景で潜在的に困窮している方はさらに多いと考えられます。解決困難な状況に陥る前に早期に介入していくために自立支援事業の更なる広報・普及が喫緊の課題です。

【令和6年度 新規相談件数】	計
相談件数	112件
プラン策定前に終了	66件
情報提供・相談対応のみで終了	22件
プラン策定前に支援中断終了	1件
他機関へのつなぎ	43件
生活福祉資金の申請または検討	3件
緊急援護資金の申請または検討	9件
日常生活自立支援事業に移行	0件
生活保護へつなぎ	3件
住居確保給付金	0件
その他関係機関	28件
プラン策定	43件
未同意・同意に向けての取り組み	3件

継続的な支援が必要な方に対してはプランを策定しプランに沿った支援をすることで自立を目指します。令和6年度は新規件数112件のうち43件、令和6年度以前に受け付けた相談のうち1件、計44件のプランを新たに策定しました。また令和6年度以前にプランを策定し支援を継続していた28件のうち12件が終結、16件は引き続き支援を継続しています。

	令和6年度以前にプランを策定し 継続支援している件数28件のうち	令和6年度 新規プラン件数44件のうち
継続件数	16件	37件
中断件数	0件	0件
終結件数	12件	7件
	課題解決による終結 8件	解決による終結 1件
	転居による終結 2件	転居による終結 2件
	その他の事由による終結 3件 (連絡不通、生活保護移行等)	その他事由による終結4件 (連絡不通、生活保護移行等)

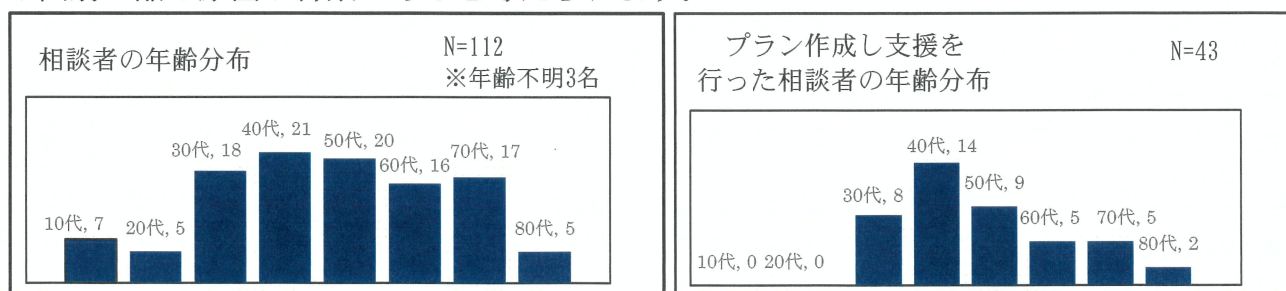
① 支援調整会議開催

作成したプラン内容の確認と共有、適切性の判断を自立相談支援機関以外の関係者を含めて協議しプランの承認を得るための支援調整会議を実施しています。プランに沿った支援を進めることで、目標達成に至っているのかを評価し、継続支援を行うか、終結・中断するかを検討します。令和6年度は計7回支援調整会議を開催しました。支援調整会議にはハローワーク久留米、社会福祉法人グリーンコープ（家計改善支援事業担当者、就労準備支援事業担当者）、福祉課がコアメンバーとして参加しています。

回	開催日	提案 件数	新規計画 案件	継続支援 案件	終結案件	中断案件
第45回	6月7日	10	2	3	5	0
第46回	7月23日	14	9	2	3	0
第47回	9月13日	11	7	3	1	0
第48回	10月11日	11	7	1	3	0
第49回	1月17日	9	6	3	0	0
第50回	2月18日	10	3	3	4	0
第51回	3月18日	17	3	8	6	0
計	7回	82	37	23	22	0

② 相談者の年齢から見えること

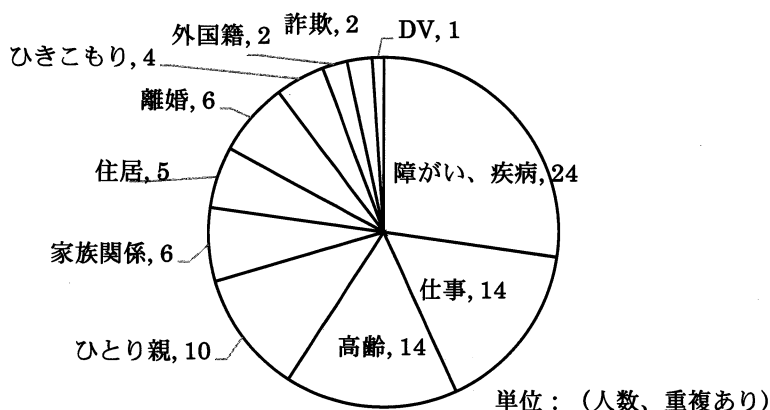
高齢化が進んでいるなか、高齢世代からの相談が多いと予測していましたが、実際は労働年齢層からの相談が多いことが図で示されています。コロナによる失業等の影響が長引いていることや人手不足と言われているなか、それでも仕事に就けない事情や困窮に陥る原因が背景にあると考えられます。



③ 相談者が金銭的な困窮以外に抱えている課題から見えること

新規相談件数 112 件のうち金銭的な困窮に加えて抱えている課題がある方について分析した結果、下記の円グラフの通りとなりました。障がいや疾病を抱えている相談者が最も多く、心身の不調により困窮状態に陥った、もしくは思うように困窮状態から抜け出すことができない状況にあることが示唆されます。心身の状況を鑑みながら慎重な対応が必要になるため相談員の高い専門性が求められています。高齢世帯は就労意欲があっても就労することが難しいケースも多く、出口が見えにくい支援になる傾向があります。対して児童が家庭にいる世帯は、困窮の状態が子どもの生育・発達や進学等に影響を及ぼさないよう、関係機関と連携し、時に迅速な対応が求められることもあります。

【困窮以外に抱える課題】



④ 令和 6 年度新規相談者の来所経路【112 件】

関係機関	福祉課生活福祉係（生活保護）	12 件	24 件
	子育て支援課	8 件	
	その他の課（総合案内含む）	4 件	
	地域包括支援センター		1 件
	民生委員		1 件
	その他関係機関		2 件
本人直接			74 件
家族・知人			8 件
自立相談支援事業所			2 件

⑤ 地域の資源活用及び開発

1	フードバンク福岡：平成 30 年 3 月 8 日基本合意書 令和 6 年度計 20 回受給 JA みい女性部：食品 17kg（お菓子、乾麺等）、日用品 10.5 kg（洗剤、石鹸等）
2	市民からの寄付： 【食品】米・ジュース・お菓子・食用油・調味料・乾麺・インスタント食品・保存食・ベビーフード・スープ類 【物品】大人用紙パンツ・パット・おむつ・マスク・タオル・洗剤類・石鹸類・衣類・シーツ・ティッシュ・衣類・毛布・生理用品・家電・衣類・割りばし・コップ・トイレットペーパー・介護エプロン・シャンプー・皿
3	ふくおかライフレスキュー事業
4	他市町社会福祉協議会による広域の寄贈物物品のやり取り

(2) 住居確保給付金支給事業

休業等に伴う収入の減少により、住居を失うおそれが生じている方々について、原則3か月、最大9か月、家賃相当額を自治体から支払先に支給する事業。

*対象：離職・廃業から2年以内で休業等により収入が減少し
住居を失うおそれがある者

令和6年度の申請希望者は5名、そのうち申請者は1名でした。申請要件に該当せず申請に至らなかった4名は、他の支援で対応することができました。

【令和6年新規申請者】

申請者数	1件
初回受給〈3か月間支給〉 *1件申請	1件
延長受給〈6か月支給〉	0件
再延長受給〈9か月間支給〉	0件
再々延長受給〈12か月間支給〉	0件
再支給受給	0件

2. ふくおかライフレスキュー事業

(1) ふくおかライフレスキュー事業

社会福祉法第2条に規定された「地域における公益的な取組み」として、制度では対応できない様々な課題対応のために、社会福祉法人が施設種別の枠を超えて連携し、生計困難者等に対する相談・支援を行い、他機関・団体と連携し適切な制度に結びつけるほか、必要に応じて現物支給による経済的援助を行う事業。

福岡県社会福祉協議会及び福岡県社会福祉法人経営者協議会では、地域における公益的な取組みのひとつとして、生活困窮等に陥っていても既存制度では解決できない方々等に対し、地域の社会福祉法人がそれぞれの専門性や社会資源を活かして支援を行う「ふくおかライフレスキュー事業」を進め、小郡市内においても平成31年2月に「小郡地区連絡会」を発足しました。

① ライフレスキュー事業申請 2件

ケース1	年金停止中。会社倒産による生活苦	生活保護受給となり終結
ケース2	家族虐待による避難	家族支援によって申請却下

② 小郡地区連絡会の開催

令和6年10月10日ケース検討会の実施 参加者5名

(2) ふくおかライフレスキュー事業小郡地区連絡会による 公益的事業の取組み

① もったいないプロジェクト

地域の方から寄せられる寄贈物をストックし、必要とされる方との調整を行っています。令和3年9月から期間限定で、寄せられた紙おむつ、紙パンツ、パッドなど臨時窓口を設置して配布し、その後も市民の方からの寄付により配布を行っています。

②小郡地区連絡会による清掃支援

清掃支援は認知症や様々な要因により、生活する上で衛生環境の悪化が著しく見られ、保健衛生上何らかの支援が必要にもかかわらず、経済的な理由等により改善が困難な方に対し、当会会員及び支援団体の中から無償で支援協力を頂ける方を募り、サービスを提供しています。

3. 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金及び緊急援護資金

生活福祉資金貸付は教育支援資金のみで、世帯の内訳は、ひとり親世帯の申請が4件、生活保護受給世帯が3件でした。

緊急援護資金貸付の内訳は、生活保護初回受給までのつなぎ資金が10件、つなぎ資金ではなく特別な緊急時と判断したケースが4件、令和6年度のみ貸付償還率は73.4%となっています。

【実績】

種 類		件数	令和6年度貸付金額
総合支援資金	生活支援費	0	
福祉資金	福祉費	0	
	緊急小口資金	0	
教育支援資金	教育支援費	8	3,487,500円 申請は8件、内1件が授業料滞納申請貸付辞退1件
	就学支度費	7	
不動産担保型生活資金	一般世帯向け 要保護世帯向け	0	
緊急援護資金 (小郡市社協独自貸付)		15	令和6年度貸付総額：396,265円 令和6年度貸付分償還金額：291,000円
計	令和6年度	30	
	令和5年度	35	

4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた生活福祉資金特例貸付生活困窮状態が続いている借受人世帯への相談支援業務

当会ではコロナ特例貸付のみならず、生活困窮者自立相談支援事業、住居確保給付金、生活困窮者自立支援金と一連の新型コロナウイルス感染症における特例支援策の一元窓口として対応し、困窮者支援を行っております。

総申請件数（未決定、不承認含む）1,300件のうち、償還状況は以下の表のとおりです。

【借受人償還状況】

申請延件数 1,300件（小郡市社協受付、郵便局受付、ろうきん受付含む）						
償還完了	償還中 滞納無	償還免除	滞納中	未応答	償還猶予	*その他
62件	73件	447件	167件	357件	77件	117件

*申請が郵便局、ろうきん、他市町村申請

【償還免除条件】借受人と世帯主が非課税、借受人の死亡、失踪宣言、自己破産
精神保健福祉手帳1級、身体障害者手帳（1級、2級）

令和6年度は償還未応答者に対し、償還猶予・免除についての案内チラシを郵送しましたが反応が無く、未応答者の約2割が転居等で住所不明となっていました。その多くは申請時に留学生だった外国籍の借受人であることから、現在は進学や就職によって転居していると考えられ追跡が困難な状況です。

また未応答者への戸別訪問も実施しましたが、応答が4件のみで生活状況の把握まで出来てはならず引き続き次年度の課題となりました。

【対応件数】

相談受付・対応件数 【計 172】					相談後の対応				相談内容（複数選択可）					
来所	電話	メール	訪問	同行・その他	社協支援 貸し付けを含む	関係機関へつなぐ	経過観察	償還免除等その他	生活費・負債	仕事	病気・障害	住まい	家族・孤立	その他
17	22	0	133	0	3	2	129	38	4	2	1	0	0	165

5. 専門家による無料相談

（1）無料法律相談会の実施

弁護士による無料法律相談会を実施

毎月第2・4木曜日 13:00～16:00	実施回数 21 回	弁護士 1 名 福岡県弁護士会筑後部会から派遣
--------------------------	-----------	----------------------------

【相談実績】

① 相談者

年 代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～	不明
122 名	0	2	4	21	27	28	27	11	2

② 相談内容別件数 * 一件の相談に複数相談内容有

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
相続	46	近所トラブル	3	債務の名義貸し	1
離婚	19	障害者(児)福祉	1	引越業者トラブル	1
多重債務	2	労働	3	法令の解釈	1
借金・金銭トラブル	8	契約トラブル	8	件の情報漏洩	1
住宅	6	弁護士着手金返金	1	中学生が他者に金銭要求	1
家族・親族トラブル	13	廃業リース車の処分	1	医療	5
健康	1	後見人	2	交際トラブル	2
土地・境界	8	株を買った会社倒産	1		
事故	2	詐欺	3		
			合計	140	件

(2) 相続等無料相談会の実施（令和6年9月より実施）

「無料法律相談会」の予約受付日には多くの予約電話があり、毎回数名の方の予約をお断りせざるを得ない状況です。相談内容は相続・離婚が多く、特に令和5年度の実績では約半数の47%が相続に関する相談でした。

不動産登記制度の改正や希薄になった家族間の相続問題などを、どこに相談したらよいか、誰に相談したらよいか分からないといったことが理由にあると考えられます。

そこで、福岡県行政書士会から協力をいただき「相続等無料相談会」を9月から実施しました。

【開催日時】

毎月第3木曜日 13:00～17:00	実施回数6回	行政書士2名 福岡県行政書士会から派遣
------------------------	--------	------------------------

【相談実績】

① 相談者

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	不明
36名	0	0	0	1	2	12	12	8	1

② 相談内容別件数 * 一件の相談に複数相談内容有

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
遺言書作成	2	法定相続人	1	自宅売却	1
相続手続き	4	法定相続割合	1	抵当権	1
相続登記	9	遺産分割(現金)	1	土地開発	1
相続争い	1	山林贈与	1	私道	1
相続放棄	1	土地売買贈与	1	成年後見	1
相続税	2	分筆	1	借家契約更新	1
不動産相続	2	未登記家屋の取扱い	1	節税対策	1
生前贈与	2	不動産の名義	1		
合計				38	件

(3) 他機関による無料相談会

相談会	開催日	場所	主催	相談件数
無料調停 相談会	令和6年11月24日(日) 10:00～15:00	小郡市社会福祉 協議会相談室	久留米 調停協会	3件

6. 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいのある方で、判断能力が十分でなくても地域で安心して暮らせるように、福祉サービス利用や日常的な金銭管理などに不安のある方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるようお手伝いをします。

専門員 2名 (1名兼任)	困りごとや悩みごとの相談を受けます。そして本人の希望をもとに適切な支援計画を作り、契約をします。サービスの利用を始めてからも、心配な点があればいつでも相談をうけます。
生活支援員 3名	支援計画に沿って、定期的に訪問します。福祉サービスの利用手続きや、預貯金の出し入れをお手伝いします。

【契約者数】（令和6年4月1日から令和7年3月31日）

日常金銭管理	日常的な金銭管理にかかる書類等を預かります。	24件
	当会で預貯金通帳、通帳印の預かり *50万円以内の預貯金通帳に限ります。	24件
書類の預かり	普段取り扱わないその他の書類等を預かります。（年金手帳 証書、預金通帳、登記識別情報通知書、実印、キャッシュカードなど）*500万円以内の預貯金通帳に限ります。	19件

【日常生活自立支援事業訪問活動回数】

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者	高齢	6	10	7	11	7	9	7	8	9	8	6	7	95
	知的障がい	7	8	8	7	7	12	8	14	15	9	6	7	108
	精神障がい	24	17	18	19	21	18	23	13	15	17	16	17	218
	計	37	35	33	37	35	39	38	35	39	34	28	31	421

【日常生活自立支援事業相談状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規契約者	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
契約終了者	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2

*終了者：死亡1名 自己管理1名

7. 成年後見支援センターの開設

令和6年6月に小郡市受託事業として令和6年6月に「小郡市成年後見支援センター」を開設し、広報活動、制度に関する相談対応、申立ての支援を行いました。

相談はご家族だけでなくご本人や相談事業所からの問い合わせもありました。

相談内容によっては制度利用に関する相談のみではなく、複合した課題を抱えた内容もあり、制度利用の有無、他の機関へのつなぎなど困難なケースもあり、今後は関係機関と情報共有やケース検討を行う必要があります。

（1）成年後見制度の周知啓発：講座の開催・広報活動

①ちらし作成 /配布先：包括支援センター・病院・郵便局・銀行

②パンフレット作成

③講座の開催 令和6年8月15日開催 参加者 26名

「知的障がい者の成年後見」

講師 NPO法人つなぐ理事長 西田ちゆき さん

（社会福祉士 法政大学現代福祉学部兼任講師）

（2）成年後見制度の利用支援にかかる相談対応

【実績】相談 36件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	1	1	5	3	6	1	4	2	0	5	4	4	36

（3）権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの開催

令和7年度より定期開催予定

【生活支援部門】

1. 機材の貸出

(1) 車いすの貸出し事業

高齢者や障がいのある人に対し、医療機関への通院や入退院の送迎、家族との外出などに車いすの貸出しを行いました。事業の周知が広がり、年齢に関わらず、けがや病気等で利用を希望される方が増えました。 計 113 台

(2) 車いす対応車輛貸出事業

車両の整備は行うも使用年数が 18 年となり老朽化が進み安全性を考慮し、貸出しを控え事業の再検討を行います。 計 4 回

2. 障がい児長期休暇スクール事業

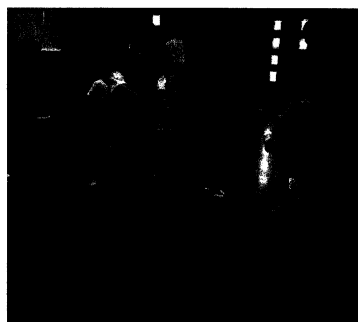
市福祉課・サポネットおごおり・こぐま福祉会との連携により、障がいのある小中高校生の春・夏休みの長期休暇中に遊びと体験の場の提供、障がい児同士またボランティアとの交流、保護者の支援及びボランティアの育成としてスクールを開催しました。(冬休みは、開催中止しております)

① サマースクール

月 日	8 月 4 日 (日)	8 月 5 日 (月)	8 月 9 日 (金)
内 容	【ボランティア研修会】 ・障がい児の理解を深める	【スクール】 ・うどん調理体験 ・お買い物体験など	【スクール】 ・おやつ調理体験 ・夏祭り（ヨーヨー釣り、かき氷、スイカ割りなど）
参加者	ボランティア 29 名	参加者 12 名 ボランティア 24 名	参加者 15 名 ボランティア 34 名
時 間	9:30～11:30	9:00～16:00	9:00～16:00
会 場	「あすてらす」(多目的ホール・視聴覚室)		

② スプリングスクール

月 日	3 月 23 日 (日)	3 月 25 日 (火)
内 容	【ボランティア研修会】 ・ボランティア交流会	【スクール】 ・パン調理体験・バスハイク・公園散策など
参加者	ボランティア 11 名	参加者 8 名 ボランティア 26 名
時 間	9:30～11:30	9:00～16:00
会 場	「あすてらす」(視聴覚室・多目的ホール)	



サマースクールの様子



スプリングスクールの様子

3. ファミリープレイス事業

障がい児・者とその家族が地域における居場所を確保すると共に、ボランティアとの交流を深めることで地域生活の充実を図ることを目的とし、月1回の居場所づくり事業（ボランティアと家族間交流の場）を実施しました。

開催日及び開催時間	会 場	内 容
第3日曜日又は前後の週の日曜日（月1回） 10時から15時	あすてらす2階和室	参加者一人ひとりのペースを尊重しながら、お絵描きやボール遊びなど、それぞれの興味や気分に応じて、ボランティアスタッフとともに自由な時間を過ごす。

月 日	利用者・家族者数	ボランティア数	計
6月16日	29名	10名	39名
7月21日	10名	13名	23名
8月18日	12名	11名	23名
9月8日	10名	10名	20名
10月6日	4名	8名	12名
11月17日	12名	9名	21名
12月15日	15名	10名	25名
1月19日	9名	9名	18名
2月23日	12名	8名	20名
3月16日	7名	5名	12名
計	120名	93名	213名



当事者団体「あっとほーむ」・「イルカの会」も参加していただきました。また、ボランティアの高齢化もあり参加が少なくなっていることから新規ボランティアの呼びかけが今後の課題です。

4. 環境整備の推進

今年度は、行政区の状況に応じてベンチなどの設置及び補修を行いました。

【ベンチ設置・塗装修理】

行政区数	塗装修理
2 行政区	2 基

【遊具修理・撤去】

行政区数	設置場所	修理・撤去内容
3 行政区	公民館・神社	複合遊具塗装修復・ブランコ塗装・チェーン座板取替・すべり台塗装修理
1 行政区	神社	滑り台・ジャングルジム・ブランコ

【看板】

行政区数	子どもの飛び出し注意
1 行政区	2 基



5. 福祉バス（さちかぜ号）運行事業

感染予防対策として、引き続き車内の消毒や休憩中の換気を行い、当会や支援団体が円滑に活動できるよう努めました。

また、ふれあいネットワーク事業、市内の福祉団体やボランティア団体等の研修、ボランティア活動、レクリエーション事業など地域福祉の推進を図るために、マイクロバスの運行を円滑にする移動及び時間計画のサポートを行いました。

【利用状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
運行回数	1	12	9	7	3	13	13	15	5	8	6	5	97
利用人員	18	276	176	135	77	280	288	281	76	146	104	78	1,935

【部門間での取り組み】

1. 総合相談支援体制の構築と包括的支援体制の整備

「福祉なんでも相談」を開設し、担当業務にこだわらない職員全体で包括的な相談支援として、「どこへ相談したらよいかわからない・どうしていいかわからない」といった相談に対応し、内容を整理した上で解決方法を考え、関係機関へのつなぎや必要なサービスや制度を探し問題解決の糸口を一緒に探していく「断らない相談」を実施しました。

広報の方法として、市報、社協だよりにより全戸配布。社協だよりや「脳トレ！宝満ノート」に掲載して、各校区コミュニティセンター設置又は、区長や民生委員児童委員により地域へ配布協力を依頼。今後も継続して広報を行います。

相談内容は様々ですが、以前からの課題である買い物支援や移動支援など直接的な個別支援の相談もさることながら、近所トラブル、ひきこもり、病気による生活不安などの相談の背景には孤立・孤独と言ったものがうかがえます。

これらをどのように解決していくのか、当会の取り組みとしての課題となっています。

【福祉なんでも相談の概要】

相談経路	電話	来所	訪問	その他	計
件数	70	38	2	1	111

【相談件数】

【電話・来所等による相談 件数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談のみ	6	4	4	5	4	7	4	4	3	6	0	2	49
解決	1	0	1	2	0	0	1	1	1	5	1	2	15
関係機関へ繋ぐ	1	6	3	1	2	3	2	3	2	4	2	1	30
その他	0	1	0	2	3	2	3	0	2	1	2	1	17
支援決定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	11	8	10	9	12	10	8	8	16	5	6	111

【ホームページによる相談】

24時間いつでもスマホ・パソコンから相談できる「相談フォーム」から受け付け

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	2	3	3	1	1	3	3	4	1	2	0	4	27

相談のみ	解決	関係機関へつなぐ	その他	支援決定
49	15	30	17	0

【相談内容】

電話・来所による相談	ホームページによる相談
詐欺・ささえ愛生活ガイド帳・住居確保給付金・買い物支援・移動支援・施設居住の父の住民票・高齢両親の緊急時対応・年金生活者支援給付金・男女トラブル・介護保険・外出所の不安・土地の売買・金銭不安・金銭管理・とにかく話を聞いてほしい など	寄付・ボランティア関係・車いす・訴訟・生活福祉資金・野良猫・詐欺など

(1) 重層的支援体制整備事業

職員間で事業の制度概要他市の取り組みなど学習会を行い、令和7年度実施に向けた取り組みを行いました。

福祉なんでも相談や各事業における課題に対し、部門間で協議を行い多機関への検討につなげるような仕組みづくりを行い、課題に対する検討会を行いました。

2. ソーシャルワーク実習の対応

ソーシャルワーク実習指導のための社会福祉実習指導者講習を受講し、指導者の育成を図りました。令和7年度受講者1名

*実習生受け入れ状況は福祉教育参照

3. 災害に対する対応

○「令和6年1月能登半島地震」における災害支援

九州ブロック社会福祉協議会連合会より、石川県珠洲市災害ボランティアセンター運営支援の要請を受け、職員を派遣し災害ボランティアセンター運営支援を行いました。

月 日	支援先	活動内容
7月5日～11日	石川県	珠洲市災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数5日、派遣職員数1名)
9月7日～13日	石川県	珠洲市災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数5日、派遣職員数1名)

○災害ボランティア活動支援プロジェクト会議より、石川県穴水町災害ボランティアセンター運営支援の要請を受け支援職員を派遣し災害支援活動を行いました。

月 日	支援先	活動内容
3月30日 ～4月7日	石川県	穴水町災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数9日、派遣職員数1名)

